

## 「プレゼン」というもの2

---

人が話し、人が聞くということの意味は何か。私は2017年から、より良い社会変革をめざすプレゼンイベントを開催していますが、それでは「プレゼン」とは何か。ちょうど2年前の4月に続く第2弾です。

「きく」 文章を書くとき、漢字に迷うことがあります。薬が効く、気が利く、暖房が効かない、わさびを利かす、ワープロ変換だと正解が表示されて助かりますが。もうひとつの「きく」は難しい。話を聞く、話を聴く、これは話の質にもよるでしょう。講演を聴く、演説を聴く、プレゼンを聴く、真剣に聴いている人の様子が伝わりますね。広く一般には「聞」を使い、注意深く耳を傾ける場合に「聴」を使います（広辞苑第七版）。

**傾聴の意義** さらに辞書を紐解けば、傾聴とは耳を傾けてきくこと、熱心にきくことの意ですから、まさに「聴く」がしっくりきます。医療の場では科学的根拠に基づいて治療を考えますが、それだけでは不十分です。アトピー性皮膚炎を例に取れば、発疹をみて検査データをみて適切な薬を選んだとしても、なかなか症状が良くならないことがあります。そんな時、患者さんの日常生活を知ることで思わぬ増悪因子が見つかったりします。ここで大事なのは私たちがよく聴くだけでなく、患者さんに自らのことを話す環境を作ってあげることであり、それが傾聴の意義なのです。

**人間は話したいのか？** ヒトは言語という高等技術を身に付けています。もちろん他の動物たちも何らかのコミュニケーション法を持つのですが。ではなぜ人間は話すのか？この文章に取り組みながら、実はすごく考えてしまいました。生きていくために必要な理由はさまざまありますが、話すことは自己アピールの本能だろうというのが結論です。だから話したいのです。ただし一方的に話すだけではなく、相手の反応をみて調節することが不可欠であり、それこそが生きるための術だと思います。

**プレゼンが引き起こすこと** 話をする状況は3つに分かれます。1対1：何人かで話していても、基本は1対1の会話です。1対多（特定）：授業や講演会などでは、特定の目的を持つ多数に向かって話します。1対多（不特定）：SNSやネット上の発信もこれに当たるでしょうか。相手がわからない不特定多数に話すことは、趣旨がずれて危険なこともあります。プレゼンは2番目の状況に当たり、特定の聴衆に向けて話すことで、望ましい行動変容を引き起こすことが目的です。

**MED ぐんま** 私は毎年5月、プレゼンイベントを主催しています。なぜ企画したか？自分が聞きたい話を人にも聞かせたいからです。そして、現代社会にとって好ましい変容が起きることに期待しているのです。MED ぐんま 2022 は来たる5月8日、群馬会館で開催いたします。医療関係のみならず、町づくりや普遍的な社会的課題に関するプレゼンを集めたので、どなたでもぜひご参加ください。ハイブリッドですからオンラインのライブ配信でも視聴可能です。

<https://gunma2022.medjapan.org>

**マスク必須** 話をする時、相手のさまざまな反応を判断しているはずですが。興味があるか、反感を持っているか、逆に何か言いたいのか、いろいろな思いを感じられなければ会話は成立しません。表情を読むことが大事ですが、マスク必須の今は難しいですね。目や顔や体の動きなど、非言語的なコミュニケーションの重要性を感じます。竹中直人さんの「笑いながら怒る人」の芸も、マスクをしていては難しいでしょう。さて、この文章があなたの生活に利いて？効いて？くれることを願います。そして紙面から目を上げて最初の会話が楽しいものでありますように。

【副院長兼皮膚科診療部長 岡田 克之】

